

拝啓 爽やかな秋晴れの季節を迎えておりますが、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

『随筆春秋』第六十号はお手元に渡っているでしょうか。

さて、私のおります札幌市も、初雪の季節が到来しております。長期積雪、つまり根雪の期間はざっと四か月を数えます。雪国に暮らす者にとっては辛抱の季節がやってまいります。

一方、今年は、私たち随筆春秋も三十周年を迎えました。これも会員である皆様のお陰です。常日頃のご厚情、感謝の念に堪えません。佐藤愛子先生は、この十一月五日に、満百歳を迎えられます。その三十年と一世紀は、いずれも節目のおめでたい区切りです。

『随筆春秋』第六十号では特集を組んで、記念すべきこの年に足跡を残すべく、編集にはいつにも増して力が入りました。会員の皆様には、その息吹を味わっていただけましたでしょうか。

直近の、第二十九回随筆春秋賞、第四回佐藤愛子奨励賞では、応募総数が奇しくも、八八八本となりました。今後の末広がり的发展を予感させるような数字です。夏から始まりました選考も、いよいよ大詰めに迎えております。お楽しみにお待ちしております。

来たる年も佳き年であることを祈念しております。末筆ながら、会員の皆様には、ますますのご健筆をお祈り申し上げます。敬具

令和五年十一月一日

一般社団法人随筆春秋

代表 近藤 健